

懷

古

目白幼稚園 和田 實

幼児の教育が創刊せられて、茲に參拾年。其前身たる「婦人と子ども」に關係して居つたと云ふゆかりで、何か懷舊談でもと云ふ御注文。で、私も何か編輯上の苦心談でもと書き掛け見ましたが、思はしい事もなし、それで、唯幼児教育其物に就いて考へて見ることにしました。

我國に幼稚園の始まつた當時の保育法は云ふ迄もなくアメリカから輸入したもので、フレーベル式の恩物が保育の中心、之に唱歌、遊戯が伴ひ、又談話が多少配されて居た様でした。其後、實行の結果から、段々と部分的に改廢されて、二十恩物の中、漸次に、三體、紙刺し、木片組み方、連

板などは使はぬ様になり、積木も改良されて、四種が三種となりました。今、フレーベル館で賣つて居る第一より第三に至る積木は當時の幼稚園主事であつた中村五六氏が時の保姆諸姉と相談して決定されたものだそうです。

私が女高師幼稚園の職員となつたのは明治三十八年でしたが、其頃の幼稚園では、第一恩物の六越も滅多に、使ふ人はありませんでした。當時行はれて居た恩物としては積木、色板、箸輪、石盤畫、縫ひ取り、紙剪り、紙織り、紙組み、紙たぐみ、豆細工、粘土細工の十一種であります。此十一種の恩物を手技として課し、尙此外に談話、

唱歌、遊戯の三保育事項を課することになつて居ました。そして、此四つの保育事項が大略、同じ程度の重要さを以て、幼児に課されて居る様に見えました。夫れですから、舶來當時の繁鎧な恩物取扱法は最早其影を歿して、私の見た限りに於ては、何の恩物も頗る子供らしい取扱法をされて居て、別段、幼児に無理を強いたり、わざとらしい注入をしたりする様なことはありませんでした。恩物及び其取扱が斯く進歩して來た様に唱歌及び遊戯なども、餘程、心理的に幼児に適する様になつて居て、幼児は心から、唱歌を娯しみ、遊戯を嬉がつて居る様でした。是は文部省編纂幼稚園唱歌集と云ふ本と東基吉氏編著の幼稚園唱歌集との内容を比較して見ると、誰にも明瞭に其進歩の跡が窺はれます。

談話に就いても同様な跡が見えました。保育法輸入當時の談話には随分、高尚に過ぎる材料もあ

つた様でしたが、當時の談話内容は頗る幼児の心理に適するものとなつて居て、保姆のち話しは能く幼児に樂しまれ、傾聽せられて居ました。
然らば以上、四種の保育事項が、何んな理論に因つて統制されて居つたかと云ふと、是には二つの代表的著述があつて保育界の骨子となつて居りました。一つは中村五六氏の幼稚園保育法、今一つは東基吉氏の幼稚園保育法教科書であります。

併し私が幼稚園の教育界に入つてから、不思議に想つた事は、所謂、保育事項の四つの課程が、恰も學校教育の教科目の様に見做され、取扱はれて居て、幼児は亦之を稽古だと思つて居る様に見えた事でした。夫れ故に幼児は四つの課業の時は能く緊張して居て、隨分忍耐もし、努力もする様でした。が、何うも積極的の自己活動でなく、動もすれば消極的、受動的な活動をして居る様に見ゆ

る節が多くなりました。是が、私には頗る不思議に思はれると共に、又頗る遺憾に思はれた事でした。形式の上から見ても夫れは、學校とあまり違はず様な行り方でもあつたのです。例へば、時間割を極めて月曜日には恩物の何に話しは何、遊戯は何と云ふ様に定めて何時より何時迄何をすると云ふ様に豫定を立てたものです。丁度、四つの保育事項は四つの教科の様で、其保育事項の課業中は學校の授業中と何等變りはない様でした。

私が第一に起した不審は四つの保育事項は教科目であらうか、其課業は稽古即ち學習であらうかと云ふことでした。今から考へたら、私が斯んな質問を發することは馬鹿氣きつて居ると考へなたならば、現在の諸君でも必ず驚嘆されたに違ひないと思ふのです。併し、私の不審は間もなく解決されました。是れは、フレーベルの主張する幼

兒教育の本旨でないと云ふ事は間もなく理解されたからでした。併し又、幼兒には稽古させるのではない。遊ばすのだと云ふことが判ると同時に第二の不審が出て來ました。夫れは何かと云ふと四つの保育事項が、子供を遊ばして居るのだとすると、子供の遊びを此四つに限るのは、少し變ではないか、子供の遊戯は此四つ以外には無いのだからうか？ 否々、子供は四つの保育事項の外に、其自由の時間に於て、數へ切れぬ多くの遊びを持つて居る。して見ると保育事項を四つに限ることは少し變てはないかと云ふ第二の不審が出て來ました。夫れと同時に前記二先生の著書が何れも此四つの保育事項を完全に施行することで幼兒教育を説き了つて居ることが、少し物足りなくなつて來ました。甚だ生意氣な事でしたが。併し、物足りないことは何處迄も物足りないのですから、何とかして此物足りなさを解決したいものだと云ふ考

へが日夜、私を悩ました。そして、

一、幼兒の遊びの種類には何なんものがあるだらうかと云ふこと

二、遊戯の各種類毎に何んな教育的考察が要るだらうかと云ふこと

三、幼兒をして眞正の自己活動をさせるには何んな風に遊ばせたものかと云ふこと

四、遊戯以外に幼兒を教育するものは何かと云ふこと

以上、四つの問題が絶えず私の脳裏を往来して居ました。そこで、私は教育の根本方針に立ち返つて考へて見ました。すると、ルーソーの所謂兒童教育の方法は兒童の發達其ものに求めなければならぬと云ふ大原則を思ひ出しました。夫れで私は早速、方向を轉じて幼兒の生活其ものを仔細に分析することにしました。そして其處には幼兒の生活として、衣食住や寝起きに關係した受動的の

日常生活と父母兄姉朋友などとの社會的(交際的)生活と自己の眞正の發展的活動であるところの遊戯的生活との三方面があることが判り、そして、持つ可きものであることが判りました。そして、更に幼兒の遊戯的生活には何んな種類があるか、其材料には如何なるものが使用せられるか、其遊戯は如何に發達し行くか、と云ふ様なことが段々に判つて來ました。斯くして幼兒の生活の細部が判つて行くに連れて、凡ての遊戯事項の根本の性質からして、自然と其取扱い方も會得が行くやうになりました。そこで、從來行はれて居る様な學校風なやり方、稽古風な遊び方は止めなければならぬと同時に、教育は稽古じみた保育事項以外の遊びや、交際や、生活に大に注意しなければならぬと云ふことに氣付き、所謂、保育法は單に幼兒の保護養育に止まる可きではなく、否却つて幼兒

は極めて積極的に發展的に教育せられねばならぬと云ふことに氣が付いたので、從來使はれて居つた「保育」の文字を嫌つて「幼兒教育」の文字を使ふことにしました。現今では幼兒教育の文字は誰れも何の氣なしに使つて居ますが私が明治四十一年に「幼兒教育」法を出さぬ以前には使はれなかつたものでした。

拙著幼兒教育法は斯る意味で、從來の稽古風な保育法學習的な保育法を脱して、眞に子供を遊ばせることに因つて教育して行かうとする意味を、教育學上から、説明したものでした。幸に此主意は何等の反対意見もなく擴がつて行つて、今日では既に普通の教育思想となりましたが、想へば拙著幼兒教育法は保育界に於ける劃期的の著述となりました。

爾來、星移り年代つて、二十餘年になります。

從つて、幼兒教育の内容は大部變つて來た様です

が、私の眼指して居る幼兒發達の規格其ものゝ調査並に其調査に基く教育施設の適合と云ふ點には未だ／＼遺憾が多い様であります。是は一には一時盛んになり掛けた兒童研究が徒らに、一部心理學者の個性的心理研究に引きづられて兒童の個性の内容にのみ重きを置いて、一般的綜合的發達に眼をつけなかつた結果だらうと思ひます。是から教育者は向きを變へて今一度兒童發達の根本に歸り兒童研究を發展的に調査して、眞正の主觀的自然主義の教育を奮ひ起さねばならぬものと思ひます。

幼兒教育の熱心なる研究家、理學士文學士大塚喜一氏は、成城學園幼稚部にて保育の實際を研究されましたが、今回、京都市平安女學院保母科の教育・心理擔任として赴任されました。